

## 関西外国語大学大学院教育課程の教育目標および3つのポリシー

### 研究科の目的

---

外国語学研究科は、建学の理念に則り、公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応える専門の教授研究を通して、現代の国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた高度専門職業人を育成することを目的とします。

### 教育目標

---

本研究科は、外国語学研究科の目的を受けて、言語と文化に関する教育課程における理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

#### 【博士前期課程】

##### ○専門知識と研究能力

言語と文化の教授研究を通して、専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

##### ○豊かな教養

豊かな教養と専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

##### ○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

##### ○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

#### 【博士後期課程】

##### ○高度な専門知識と研究能力

言語と文化の教授研究を通して、高度な専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

##### ○豊かな教養

豊かな教養と高度な専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養

います。

○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

## 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

本研究科は、言語と文化に関する教育課程における理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「修士」あるいは「博士」の学位を授与します。

### 【博士前期課程】

○専門知識と研究能力

- ・専攻分野（英語学、英語教育、言語文化、日本語学・日本語教育、国際共生コミュニケーション）に関する専門知識を身につけている。
- ・先行研究を正確に理解し、資料等を的確に収集・分析する能力と自立して研究を遂行できる能力を身につけている。

○豊かな教養

- ・専攻分野を超えて、幅広い教養を身につけている。
- ・多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

- ・異文化間の相互理解を図るために必要な言語コミュニケーション能力を身につけている。
- ・多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

- ・複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

### 【博士後期課程】

○高度な専門知識と研究能力

専攻分野（英語学、英語教育、言語学、言語文化、日本語学、文化人類学、比較文化学）の研究を通して、高度な専門知識、先行研究に対する深い理解、関連する資料等の的確な収集・分析力、および論理的・批判的な思考力を併せ持ち、自立して研究する能力を身に

つけている。

○豊かな教養

専攻分野を超えた高度かつ幅広い教養と多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

異文化間の相互理解を図るための高度な言語コミュニケーション能力と多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

本研究科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

### 【博士前期課程】

#### （教育課程編成の考え方）

教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

#### （学修内容および学修方法）

##### ○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、専攻分野における幅広い専門分野の知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と専門知識をもとに学位論文作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

##### ○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

#### （学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 【博士後期課程】

(教育課程編成の考え方)

教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」「自由科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

(学修内容および学修方法)

### ○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、専攻分野における高度な専門分野の知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と専門知識をもとに学位論文作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

自由科目は、大学教員等として必要な高等教育に関する知識を修得する内容になっています。

### ○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

(学修成果の評価方法)

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

本研究科は、言語と文化に関する学修を通して、教育目標に定める人材育成方針に沿って、適切な入学選抜方法により、多様な学生を受け入れます。

(入学選抜方法)

○選抜は、一般入学試験、推薦入学試験（海外提携校推薦も含む）により、入学時期に応じて年2回行います。

○選抜に関しては、原則として外国語にかかる学力をはじめ、専攻分野に関する論述問題についての筆記試験を課すとともに、研究意欲・能力・適性などについての口述試験を課します。

(求める人材像)

○言語運用能力を基盤として、言語・文化の諸事象に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を求めます。(博士前期課程)

○高度な言語運用能力を基盤として、言語・文化に関する理論などの探究をめざす者を求めます。(博士後期課程)

## 学位プログラム「英語学」

---

学位：修士（英語学）

### 教育目標

---

学位プログラム「修士（英語学）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な英語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○専門知識と研究能力

英語学の教授研究を通して、専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な英語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（英語学）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、英語学に関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「修士（英語学）」を授与します。

○専門知識と研究能力

・英語学に関する専門知識を身につけている。

・先行研究を正確に理解し、資料等を的確に収集・分析する能力と自立して研究を遂行できる能力を身につけている。

- 豊かな教養
  - ・専攻分野を超えて、幅広い教養を身につけている。
  - ・多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。
- 高度な国際性
  - ・異文化間の相互理解を図るために必要な英語コミュニケーション能力を身につけている。
  - ・多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。
- 社会の要請に応える実践力
  - ・複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（英語学）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

### （教育課程編成の考え方）

学位プログラム「修士（英語学）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

### （学修内容および学修方法）

#### ○学修内容

専門科目は、高度な英語運用能力を育成するとともに、統語論、意味論・語用論などにおける幅広い専門分野の知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な英語運用能力と英語学に関する専門知識をもとに修士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

#### ○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

### （学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（英語学）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な英語運用能力を基盤として、英語学に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○推薦入学試験

本学大学院での学修を志望する本学の学部学生を対象として、年1回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力などを確認するため、書類による選考を行います。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

（求める人材像）

- ・英語運用能力を基盤として、英語学に関する広く深い知識の修得に興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な英語学に関する基礎的な知識を有する者

## 学位プログラム「英語教育」

---

学位：修士（英語教育）

### 教育目標

---

学位プログラム「修士（英語教育）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な英語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○専門知識と研究能力

英語教育の教授研究を通して、専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な英語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（英語教育）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、英語教育に関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「修士（英語教育）」を授与します。

○専門知識と研究能力

・英語教育に関する専門知識を身につけている。

・先行研究を正確に理解し、資料等を的確に収集・分析する能力と自立して研究を遂行できる能力を身につけている。

- 豊かな教養
  - ・専攻分野を超えて、幅広い教養を身につけている。
  - ・多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。
- 高度な国際性
  - ・異文化間の相互理解を図るために必要な英語コミュニケーション能力を身につけている。
  - ・多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。
- 社会の要請に応える実践力
  - ・複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（英語教育）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

### （教育課程編成の考え方）

学位プログラム「修士（英語教育）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

### （学修内容および学修方法）

#### ○学修内容

専門科目は、高度な英語運用能力を育成するとともに、第二言語習得、コミュニケーション文法などにおける幅広い専門分野の知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な英語運用能力と英語教育に関する専門知識をもとに修士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

#### ○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

### （学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（英語教育）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な英語運用能力を基盤として、英語教育に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○推薦入学試験

本学大学院での学修を志望する本学の学部学生を対象として、年1回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力などを確認するため、書類による選考を行います。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

（求める人材像）

- ・英語運用能力を基盤として、英語教育に関する広く深い知識の修得に興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な英語教育に関する基礎的な知識を有する者

## 学位プログラム「言語文化」

---

学位：修士（言語文化）

### 教育目標

---

学位プログラム「修士（言語文化）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な言語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○専門知識と研究能力

言語文化に係わる教授研究を通して、専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（言語文化）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、言語文化に係わる理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「修士（言語文化）」を授与します。

○専門知識と研究能力

- ・言語文化に係わる専門知識を身につけている。
- ・先行研究を正確に理解し、資料等を的確に収集・分析する能力と自立して研究を遂行できる能力を身につけている。

○豊かな教養

- ・専攻分野を超えて、幅広い教養を身につけている。
- ・多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

- ・異文化間の相互理解を図るために必要な言語コミュニケーション能力を身につけている。
- ・多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

- ・複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（言語文化）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「修士（言語文化）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、言語・文学・文化などにおける幅広い専門分野の知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と言語文化に係わる専門知識をもとに修士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

- ・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。
- ・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（言語文化）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な言語運用能力を基盤として、言語文化に係わる知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○推薦入学試験

本学大学院での学修を志望する本学の学部学生を対象として、年1回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力などを確認するため、書類による選考を行います。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○海外提携校推薦入学試験

本学の海外提携校のうち、指定された大学からの学生で本学大学院での学修を志望する学部学生を対象として、年2回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力、専門的な知識、学修目的・意欲などを確認するため、所定の出願書類（研究計画書を含む）による選考を行います。

（求める人材像）

- ・言語運用能力を基盤として、言語・文学・文化などに関する広く深い知識の修得に興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な言語文化に係わる基礎的な知識を有する者

## 学位プログラム「日本語学」

---

学位：修士（日本語学）

### 教育目標

---

学位プログラム「修士（日本語学）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な言語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○専門知識と研究能力

日本語学の教授研究を通して、専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（日本語学）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、日本語学に関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「修士（日本語学）」を授与します。

○専門知識と研究能力

- ・日本語学に関する専門知識を身につけている。
- ・先行研究を正確に理解し、資料等を的確に収集・分析する能力と自立して研究を遂行できる能力を身につけている。

○豊かな教養

- ・専攻分野を超えて、幅広い教養を身につけている。
- ・多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

- ・異文化間の相互理解を図るために必要な言語コミュニケーション能力を身につけている。
- ・多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

- ・複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（日本語学）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「修士（日本語学）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、日本語学・日本語教育学・対照言語学などにおける幅広い専門分野の知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と日本語学の専門知識をもとに修士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（日本語学）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な言語運用能力を基盤として、日本語学に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○推薦入学試験

本学大学院での学修を志望する本学の学部学生を対象として、年1回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力などを確認するため、書類による選考を行います。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○海外提携校推薦入学試験

本学の海外提携校のうち、指定された大学からの学生で本学大学院での学修を志望する学部学生を対象として、年2回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力、専門的な知識、学修目的・意欲などを確認するため、所定の出願書類（研究計画書を含む）による選考を行います。

（求める人材像）

- ・言語運用能力を基盤として、日本語の構造・意味・機能などに関する広く深い知識の修得に興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な日本語学に関する基礎的な知識を有する者

## 学位プログラム「国際共生コミュニケーション」

---

### 学位：修士（国際共生コミュニケーション）

#### 教育目標

---

学位プログラム「修士（国際共生コミュニケーション）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な英語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○専門知識と研究能力

国際共生コミュニケーションの教授研究を通して、専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探求・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な英語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

#### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（国際共生コミュニケーション）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、国際共生コミュニケーションに関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「修士（国際共生コミュニケーション）」を授与します。

○専門知識と研究能力

- ・国際共生コミュニケーションに関する専門知識を身につけている。

・先行研究を正確に理解し、資料等を的確に収集・分析する能力と自立して研究を遂行できる能力を身につけている。

○豊かな教養

- ・専攻分野を超えて、幅広い教養を身につけている。
- ・多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

- ・異文化間の相互理解を図るために必要な英語コミュニケーション能力を身につけている。
- ・多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

- ・複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（国際共生コミュニケーション）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「修士（国際共生コミュニケーション）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な英語運用能力を育成するとともに、国際関係論、国際発展論、日本経済論などにおける幅広い専門分野の知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な英語運用能力と国際共生コミュニケーションの専門知識をもとに修士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせて、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

- 学修成果は履修科目・学位論文により評価します。
- ・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。
  - ・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「修士（国際共生コミュニケーション）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な英語運用能力を基盤として、国際共生コミュニケーションに関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○推薦入学試験

本学大学院での学修を志望する本学の学部学生を対象として、年1回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力などを確認するため、書類による選考を行います。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○海外提携校推薦入学試験

本学の海外提携校のうち、指定された大学からの学生で本学大学院での学修を志望する学部学生を対象として、年2回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力、専門的な知識、学修目的・意欲などを確認するため、所定の出願書類（研究計画書を含む）による選考を行います。

（求める人材像）

- ・英語運用能力を基盤として、国際共生コミュニケーションに関する広く深い知識の修得に興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な国際共生コミュニケーションに関する基礎的な知識を有する者

## 学位プログラム「英語学」

---

学位：博士（英語学）

### 教育目標

---

学位プログラム「博士（英語学）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な英語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○高度な専門知識と研究能力

英語学の教授研究を通して、高度な専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と高度な専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な英語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（英語学）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、英語学に関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「博士（英語学）」の学位を授与します。

○高度な専門知識と研究能力

英語学に関する教授研究を通して、高度な専門知識、先行研究に対する深い理解、関連する資料等の的確な収集・分析力、および論理的・批判的な思考力を併せ持ち、自立して研究する能力を身につけている。

○豊かな教養

専攻分野を超えた高度かつ幅広い教養と多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

異文化間の相互理解を図るための高度な英語コミュニケーション能力と多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（英語学）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「博士（英語学）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」「自由科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な英語運用能力を育成するとともに、英語学に関する高度な専門知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な英語運用能力と英語学に関する高度な専門知識をもとに博士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

自由科目は、大学教員等として必要な高等教育に関する知識を修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

- ・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（英語学）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な英語運用能力を基盤として、英語学に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

（求める人材像）

- ・高度な英語運用能力を基盤として、英語学に関する理論的な分析などに興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な英語学に関する知識を有する者

## 学位プログラム「英語教育」

---

学位：博士（英語教育）

### 教育目標

---

学位プログラム「博士（英語教育）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な英語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○高度な専門知識と研究能力

英語教育の教授研究を通して、高度な専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と高度な専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な英語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（英語教育）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、英語教育に関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「博士（英語教育）」の学位を授与します。

○高度な専門知識と研究能力

英語教育の教授研究を通して、高度な専門知識、先行研究に対する深い理解、関連する資料等の的確な収集・分析力、および論理的・批判的な思考力を併せ持ち、自立して研究する能力を身につけている。

○豊かな教養

専攻分野を超えた高度かつ幅広い教養と多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

異文化間の相互理解を図るための高度な英語コミュニケーション能力と多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（英語教育）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「博士（英語教育）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」「自由科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な英語運用能力を育成するとともに、英語教育に関する高度な専門知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な英語運用能力と英語教育に関する高度な専門知識をもとに博士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

自由科目は、大学教員等として必要な高等教育に関する知識を修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（英語教育）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な英語運用能力を基盤として、英語教育に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・ 外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・ 専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・ 専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

（求める人材像）

- ・ 高度な英語運用能力を基盤として、英語教育の理論的な分析などに興味を有する者
- ・ 自立して研究活動を行うために必要な英語教育に関する知識を有する者

## 学位プログラム「言語学」

---

学位：博士（言語学）

### 教育目標

---

学位プログラム「博士（言語学）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な言語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○高度な専門知識と研究能力

言語学の教授研究を通して、高度な専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と高度な専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（言語学）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、言語学に関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「博士（言語学）」の学位を授与します。

○高度な専門知識と研究能力

言語学に関する教授研究を通して、高度な専門知識、先行研究に対する深い理解、関連する資料等の的確な収集・分析力、および論理的・批判的な思考力を併せ持ち、自立して研究する能力を身につけている。

○豊かな教養

専攻分野を超えた高度かつ幅広い教養と多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

異文化間の相互理解を図るための高度な言語コミュニケーション能力と多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（言語学）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「博士（言語学）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」「自由科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、言語学に関する高度な専門知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と言語学に関する高度な専門知識をもとに博士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

自由科目は、大学教員等として必要な高等教育に関する知識を修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（言語学）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な言語運用能力を基盤として、言語学に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○海外提携校推薦入学試験

本学の海外提携校のうち、指定された大学の学生で本学大学院博士後期課程での学修を志望する修士課程等修了生を対象として、年2回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力、専門的な知識、学修目的・意欲などを確認するため、所定の出願書類（研究計画書、修士論文を含む）による選考を行います。

（求める人材像）

- ・高度な言語運用能力を基盤として、言語の構造・意味・機能に関する様々な現象の理論的な分析などに興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な言語学に関する知識を有する者

## 学位プログラム「言語文化」

---

学位：博士（言語文化）

### 教育目標

---

学位プログラム「博士（言語文化）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な言語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○高度な専門知識と研究能力

言語文化に係わる教授研究を通して、高度な専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と高度な専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（言語文化）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、言語文化に係わる理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「博士（言語文化）」の学位を授与します。

○高度な専門知識と研究能力

言語文化に係わる教授研究を通して、高度な専門知識、先行研究に対する深い理解、関連する資料等の的確な収集・分析力、および論理的・批判的な思考力を併せ持ち、自立して研究する能力を身につけている。

○豊かな教養

専攻分野を超えた高度かつ幅広い教養と多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

異文化間の相互理解を図るための高度な言語コミュニケーション能力と多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（言語文化）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「博士（言語文化）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」「自由科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、言語文化に係わる高度な専門知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と言語文化に係わる高度な専門知識をもとに博士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

自由科目は、大学教員等として必要な高等教育に関する知識を修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（言語文化）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な言語運用能力を基盤として、言語文化に係わる知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○海外提携校推薦入学試験

本学の海外提携校のうち、指定された大学の学生で本学大学院博士後期課程での学修を志望する修士課程等修了生を対象として、年2回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力、専門的な知識、学修目的・意欲などを確認するため、所定の出願書類（研究計画書、修士論文を含む）による選考を行います。

（求める人材像）

- ・高度な言語運用能力を基盤として、言語・文学・文化に関する理論的な分析などに興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な言語文化に係わる知識を有する者

## 学位プログラム「日本語学」

---

学位：博士（日本語学）

### 教育目標

---

学位プログラム「博士（日本語学）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な言語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○高度な専門知識と研究能力

日本語学の教授研究を通して、高度な専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と高度な専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（日本語学）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、日本語学に関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「博士（日本語学）」の学位を授与します。

○高度な専門知識と研究能力

日本語学に関する教授研究を通して、高度な専門知識、先行研究に対する深い理解、関連する資料等の的確な収集・分析力、および論理的・批判的な思考力を併せ持ち、自立して研究する能力を身につけている。

○豊かな教養

専攻分野を超えた高度かつ幅広い教養と多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

異文化間の相互理解を図るための高度な言語コミュニケーション能力と多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（日本語学）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「博士（日本語学）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」「自由科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、日本語学に関する高度な専門知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と日本語学に関する高度な専門知識をもとに博士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

自由科目は、大学教員等として必要な高等教育に関する知識を修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（日本語学）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な言語運用能力を基盤として、日本語学に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○海外提携校推薦入学試験

本学の海外提携校のうち、指定された大学の学生で本学大学院博士後期課程での学修を志望する修士課程等修了生を対象として、年2回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力、専門的な知識、学修目的・意欲などを確認するため、所定の出願書類（研究計画書、修士論文を含む）による選考を行います。

（求める人材像）

- ・高度な言語運用能力を基盤として、日本語の構造・意味・機能に関する分析などに興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な日本語学に関する知識を有する者

## 学位プログラム「文化人類学」

---

学位：博士（文化人類学）

### 教育目標

---

学位プログラム「博士（文化人類学）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な言語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○高度な専門知識と研究能力

文化人類学の教授研究を通して、高度な専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と高度な専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（文化人類学）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、文化人類学に関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「博士（文化人類学）」の学位を授与します。

○高度な専門知識と研究能力

文化人類学に関する教授研究を通して、高度な専門知識、先行研究に対する深い理解、関連する資料等の的確な収集・分析力、および論理的・批判的な思考力を併せ持ち、自立して研究する能力を身につけている。

○豊かな教養

専攻分野を超えた高度かつ幅広い教養と多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

異文化間の相互理解を図るための高度な言語コミュニケーション能力と多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（文化人類学）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「博士（文化人類学）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」「自由科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、文化人類学に関する高度な専門知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と文化人類学に関する高度な専門知識をもとに博士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

自由科目は、大学教員等として必要な高等教育に関する知識を修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

- ・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（文化人類学）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な言語運用能力を基盤として、文化人類学に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○海外提携校推薦入学試験

本学の海外提携校のうち、指定された大学の学生で本学大学院博士後期課程での学修を志望する修士課程等修了生を対象として、年2回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力、専門的な知識、学修目的・意欲などを確認するため、所定の出願書類（研究計画書、修士論文を含む）による選考を行います。

（求める人材像）

- ・高度な言語運用能力を基盤として、文化人類学に関する理論的な分析などに興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な文化人類学に関する知識を有する者

## 学位プログラム「比較文化学」

---

学位：博士（比較文化学）

### 教育目標

---

学位プログラム「博士（比較文化学）」では、外国語学研究科の教育目標を受けて、高度な言語運用能力を基盤として、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

○高度な専門知識と研究能力

比較文化学の教授研究を通して、高度な専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。

○豊かな教養

豊かな教養と高度な専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

### 修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（比較文化学）」では、本研究科のディプロマ・ポリシーのもと、比較文化学に関する理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「博士（比較文化学）」の学位を授与します。

○高度な専門知識と研究能力

比較文化学に関する教授研究を通して、高度な専門知識、先行研究に対する深い理解、関連する資料等の的確な収集・分析力、および論理的・批判的な思考力を併せ持ち、自立して研究する能力を身につけている。

○豊かな教養

専攻分野を超えた高度かつ幅広い教養と多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

異文化間の相互理解を図るための高度な言語コミュニケーション能力と多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（比較文化学）」では、本研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

（教育課程編成の考え方）

学位プログラム「博士（比較文化学）」の教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」「自由科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、比較文化学に関する高度な専門知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と比較文化学に関する高度な専門知識をもとに博士論文等作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

自由科目は、大学教員等として必要な高等教育に関する知識を修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

---

学位プログラム「博士（比較文化学）」では、本研究科のアドミッション・ポリシーのもと、高度な言語運用能力を基盤として、比較文化学に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を募ります。

（選抜方法等）

### ○一般入学試験

本学大学院での学修を志望する者を対象として、入学時期に応じて年2回の選抜を行います。

- ・外国語の読解力・文章解析力・表現力などを確認するため、筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する論理的・批判的思考力などを確認するため、論述による筆記試験を課します。
- ・専攻分野に関する専門的な知識、研究意欲・能力・適性などを確認するため、口述試験を課します。

### ○海外提携校推薦入学試験

本学の海外提携校のうち、指定された大学の学生で本学大学院博士後期課程での学修を志望する修士課程等修了生を対象として、年2回の選抜を行います。

- ・学業成績や論理的・批判的思考力、専門的な知識、学修目的・意欲などを確認するため、所定の出願書類（研究計画書、修士論文を含む）による選考を行います。

（求める人材像）

- ・高度な言語運用能力を基盤として、比較文化学に関する理論的な分析などに興味を有する者
- ・自立して研究活動を行うために必要な比較文化学に関する知識を有する者